

令和7年度
3歳未満児保育サービス
向上支援研修会報告書

(保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】分野)

岡 山 県

(協力：日本保育協会岡山県支部)

令和7年度3歳未満児保育サービス向上支援研修会

(保育士等キャリアアップ研修会「乳児保育」分野)

【研修期間】 令和7年10月27日(月)、29日(火)、11月7日(水)、11日(火)

【研修会場】 きらめきプラザ、保育所実習園

【研修目的】

乳児保育に関する理解を深め、適切な環境を構成し、個々の子どもの発達の状態に応じた保育を行う力を養い、他の保育士等に乳児保育に関する適切な助言及び指導ができるよう、実践的な能力を身に付けるとともに、乳児保育の実施に必要な知識及び技術に関する情報交換の機会を提供する。

【主 催】 岡山県(協力:社会福祉法人日本保育協会岡山県支部)

【対 象】

県内の認可保育所、認定こども園、小規模保育事業所、事業所内認定保育事業所に勤務している保育士・保育教諭(園長、主任保育士を除く)、看護師、調理員等で、経験年数概ね3年～15年程度の者

【参 加 者】 39名

【研修日程】 別紙のとおり

【本研修の流れ】

事前課題(問1～3)により、受講者自身が日頃の保育の振り返りをした上で研修に参加。初日のグループワーク、4日目のグループワーク、まとめの時間を使い、本研修で学んだこと、今後取り組みたいこと等について、受講者自身が記録(問4、5)を行った。

グループワークは、いろいろな市町村の参加者と情報交換、意見共有できるよう、3～4名1組で実施した。

(参加者のうち、5名分を抜粋し掲載。)

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会 研修プログラム

(本研修は、保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】分野を兼ねています。)

【対象者】

★経験年数概ね3年以上15年未満の方…科目①～⑧(全科目)受講

9時 30分	10時	12時	13時	15時	16時	研修会場
10/27 (月)	科目①【グループ学習:2時間】 (例)各園での状況や特色を伝え合い、乳児保育の課題を明確にするとともに、乳児保育の実践例の討議を通して、乳児保育に関する実践力を身に付ける。 就実大学大学院 非常勤講師 宮川 洋子 氏 (こじかこども園 園長 ふたばこども園 園長)	開講式 昼食	科目②【講義:3時間】 乳児保育における 安全な環境と保育者の関わり			きらめきプラザ 4階 401会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
10/29 (水)	科目③【講義:2.5時間】 乳児保育の意義と乳児の発達を 支える保育者の関わり	昼食	科目④【講義:3時間】 乳児の栄養管理			きらめきプラザ 7階 706会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
11/7 (金)	科目⑤【保育所実習:2.5時間】	昼食	科目⑥【グループ学習:2時間】			実習園① 【公立】岡山市平井保育園 岡山市中区平井5丁目2-25 実習園② 【私立】原尾島こども園 岡山市中区原尾島1丁目7-5 実習園③ 【公立】田の口認定こども園 倉敷市児島田の口3-13-16 実習園④ 【私立】真備かなりや認定こども園 倉敷市真備町辻田268-1
11/11 (火)	科目⑦【講義:2.5時間】 乳児の発達に応じた保育内容 乳児保育の指導計画、記録及び評価	昼食	科目⑧【グループ学習とまとめ:3時間】 グループ学習 まとめ		閉講式	きらめきプラザ 7階 706会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
	9時 30分	10時	12時	13時	15時	研修会場

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【環境】

- ・小規模園で、1・2歳児混合のクラスである。園周辺が自然に囲まれており、図書館や子育て支援センターなども近くにあり、園外を散歩して季節を楽しむことができる。
- ・保育室内は、畳スペースと床スペースがあり、遊びや生活の状況に応じて牛乳パックで作成した仕切をして、安心して過ごせるようにしている。
- ・小規模園ということで、3歳以上児と関わる機会が多い。活動に合わせて、2歳児が3歳以上児と一緒に遊ぶなど工夫している。また、身体計測で年長児が着替えの手伝いをするなど、意図的に交流する機会もつようしている。
- ・園庭は3歳以上児と同じ園庭であるため、3歳未満児が安心して遊べる環境がつくりにくいが、異年齢の交流はしやすい環境にある。自然物を使用したままごと遊びや、砂場遊びなどでは、1・2歳児も3歳以上児と関わりながら遊んでいる。
- ・1・2歳児クラスといつても、今年度の途中で1歳を迎えたばかりの園児が数名入園したため、年齢の幅が広い。歩行を開始していない園児や何でも口にする園児もいるため、玩具の大きさや遊ぶ場など、安全面に配慮しながら保育している。

【保育内容】

- ・室内では、絵本やポットン落とし、手作り楽器、触れ合い遊びなどをしている。遊戯室で体を動かして遊ぶこともある。
- ・戸外では、砂場や乗り物、虫探し、季節の草花や野菜を使ったままごと遊びをしている。

【関わり】

- ・個々の発達段階に応じた関わりや援助を行うよう、保育教諭間で連携をとって保育している。
- ・園児一人一人に寄り添い、応答的な関わりをもちながら信頼関係を築き、安心して過ごせるようにしている。
- ・2歳児が1歳児にも目を向けられるように援助していることで、自分から優しく関わろうとする姿が見られる。

【家庭との連携】

- ・日々の送迎時にコミュニケーションをとるとともに、アプリで1日の様子や排便や睡眠、給食の状況を配信している。写真付きで配信することもあり、園での様子を共有しやすく、保護者の安心感に繋がっている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

- ・1・2歳児混合クラスであるが、年度途中で1歳を迎えた園児が入園するため、年齢の幅が広く、発達段階の差の大きさに悩むことが多い。排泄や食事、遊び、運動機能など、違う部分が多いため、それぞれの年齢に合わせた活動を行うことが難く、活動や遊びを1歳児に合わせると、2歳児には物足りず、すぐに飽きてしまう場面が見られるなど、全ての園児の育ちを意識しながら保育していくことの難しさを感じている。
- ・室内で遊ぶ時には、どちらかというと、保育教諭側が遊びを準備することが多くなってしまい、全ての園児が好きな遊びを楽しめていないのではないかと感じることがある。保育室にままごと遊びを常設したいが、食事スペースや午睡のスペース確保、安全面などを考えると場の確保が難しく、園児が好きな遊びを選べる環境をつくりにくい。
- ・戸外遊びが3歳以上児と一緒になので、探索が活発な園児や噛みつきのある園児、歩行を開始していない園児など、それぞれの安全面を見守ることが優先されてしまい、園児の遊びにゆったりと関わっていなかったり、一人一人の遊びの楽しさに共感したりすることが十分にできていないと感じる。
- ・歩行を開始していない園児は、戸外でマットを敷いて過ごしたり、ベビーカーに乗ったりしているが、他にどのような楽しみ方があるのかが分からず、同じように過ごしてしまっている。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

・混合保育を行うなかでの、工夫や援助の仕方、生活の流れ、環境などについて具体的に学びたい。

・園児がのびのびと遊んだり、安心して過ごしたりするための環境をつくるには、どのような工夫や配慮が必要かを学びたい。また、発達に合った遊びや活動について、他園ではどのようなものを取り入れられているのかについて学びたい。

・室内遊びの環境構成や、手作り玩具、ふれあい遊びなどについて、具体的に知りることで、自分自身の引き出しを増やしたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ：_____

【気付いた点・学んだ点】

- 園の環境、園児数、職員数などは各園それぞれあるが、どの園も園児のために工夫して保育していることが分かった。
- 園庭は、場を分けたり、時間を分けたりするなど、色々な方法があるんだということを感じた。
- 指導計画や記録については、園ごとに様式などが全く違った。必要な部分は残したり、期間を変えたり、改善していくことも必要だと感じた。事務時間のとり方についても聞くことができた。
- 子供たちの遊びなどについて、他の園の先生が教えて下さったことか、勉強した。

【今後自園で取り組みたいこと】

- トイレトレーニングや食事等、個々の発達に応じて進めていくこと。園児に負担のないようにしていきたい。
- 指導計画や記録について、もう少し見直すことで負担を軽減していくよう、園内で話をしたいと感じた。
- 子供たちの遊びを真似てつくれみたいと思う。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- 4人グループで、日々の悩みや困っている事について話すことができ、どの園の先生も「悩みながらも子どもたちのために」という気持ちで保育されていることが分かり、自分も頑張ろうと思えた。
- 短い期間で毎回同じメンバーで話すことができ、尋ねたことを次の研修の時に具体的に教えてもらい、とても勉強した。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・今回の研修を通して、0歳児からの積み重ねがとても大切だということが分かった。食事面、精神的、身体的発達面、身近な大人との関わりなど、どの面も今後の成長の基礎となる部分があり、保育教諭の存在、保育がとても大切であることが分かった。
- ・家庭との連携の面についても、保護者との信頼関係の元、子どもの成長と共に支えられるようになると大切であると感じた。
- ・実習園でも実際に保育を見せていただき、手づくり玩具や保育について多くのことを学ぶことができた。日々お忙しい中受け入れて下さった実習園の先生方には本当に感謝している。

【今後自園で取組みたいこと】

- ・温かい関わり、子どもに何かしてほしい時などに言葉を添えること、遊びの中で自立性を発達させるような手助けについて、これから特に意識して保育していきたい。
- ・仕事分担、子ども分担について知識があるか、様々な保育の在り方を知り、今後取り入れてみたいと思う。
- ・0歳から保育が繋りあるものにするよう、今回の研修について園の職員間で共有したい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- ・4日間、多くのことを学ぶことができた。3歳未満児をあまり担当したことがないので、日記負担していたことや不安に感じていたことについて学べたため、今後活かしていきたい。

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

＜環境＞

- ・基本的には0歳児はテラス、1歳児は乳児園庭、2歳児は園庭を少し仕切り遊ぶスペースを作っている。そこを中心として安全面に配慮しながら、子ども達が行きたい所に自由に行くことができるようにもしている。3歳以上児が園庭を使用していない時には園庭の広い所で追いかけっこをしたり、散策したりして遊ぶようにしている。

＜保育内容＞

0歳児：6名、1歳児：11名、2歳児：14名

- ・担当制で保育を行い、生活面を丁寧に見たり安心して過ごしたりすることができるようしている。子どもの思いに寄り添い保育をすることを心がけ、ゆるやかな担当制を取り入れている。
- ・天気や気温に考慮しながら、登園時に戸外で受け入れをしたり3時のおやつの後にも戸外に出たりとできるだけ戸外で遊ぶようにし、しっかりと身体を動かしたり自然に触れたりできる時間を大切にしている。
- ・日頃の遊んでいる姿から、子ども達が何に興味があり何を楽しんでいるのかを見極め、クラスの子に合った手作り玩具を用意している。

＜関わり＞

○保育者と子ども

- ・子どもの思いに寄り添い、どんな気持ちも受け入れることを大切に関わっている。
- ・子どもと同じ目線に立ち、保育士も一緒に楽しむことを心がけている。

○子ども同士

- ・2歳児は子ども同士の関わりが増えてきている。子どもなりに言葉や仕草で思いを伝えようとする姿も見られるので、できるだけ子ども同士の関わりを見守り、必要な時には仲介するようしている。

＜家庭との連携＞

- ・送迎時に様子を伝え合い、子どもが成長した喜びや悩みを共有しながら、しっかりとコミュニケーションを取っていくことを意識している。
- ・連絡帳（0. 1歳児）、連絡ボード（2歳児）で日々の姿やエピソードを保護者に知らせている。
- ・園だより（毎月）、クラスだより（年4回）や日頃のお知らせなどをHOICT（保護者向けアプリ）で配信している。
- ・参観日（6月、11月）、発表会ごっこ（2歳児）、スライド上映会（0. 1歳児）を行い、実際に保護者の方に園での様子や成長した姿を見ていただく機会を設けている。

＜他職種との協働＞

- ・保育アドバイザー事業で外部の方（大学教授や作業療法士）に子どもの様子や保育士の関わりを実際に見てもらい、支援の必要な子への関わり方や支援方法などを学ぶ機会がある。

＜計画や記録など＞

- ・月案、週案（2歳児）、乳児保育日誌（0. 1歳児）、個人指導計画（0. 1歳）、記事（2歳から）、日案（1. 2歳児）、日課（0歳児）

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容(生活や遊び)・関わり(保育者と子ども/子ども同士)・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

<環境>

・戸外では子ども達が思いっきり身体を動かして遊ぶことができるような環境を整えたいが、遊びのスペースに十分な広さを確保することが難しい。また自由に戸外遊びを楽しむことができる環境となるよう考えているが、安全面との兼ね合いが難しく悩んでいる。

<保育内容>

・クラス内での発達の差が大きく、高月齢の子が楽しめる遊びが低月齢の子にとっては危険だったり、低月齢の子が安全に楽しめる遊びは高月齢の子にとって物足りなかったりと、遊びの内容を考えるのが難しい。(特にサーキット遊びや運動遊びなど)

・日頃から保育士同士で声をかけ合い連携を取るよう心がけているが、入室時や戸外に出る時に動きが難しく、帽子の着脱や靴と靴下の脱ぎ履きなど丁寧に関わりたい場面で子どもの様子を十分に見ることができない時がよくある。

<関わり>

・個別対応が必要な子が多く、手が出やすい子の近くにつかなければならない場面がよくある。トラブルをとめることばかり意識してしまい、一人一人としっかり関わっていきたいが、子ども達と遊べなかったり要求に十分に応えられなかったりする時がある。

・午睡中、大きな声を出して寝ている子を起こしてしまう子に対して、どのように関わったら良いか。(別室に移動することは場所や保育士の人数的に難しい)

・子ども同士の関わりが増えてきており、見守ったり仲介したりする線引きが難しく、必要以上に介入してしまったと反省することがある。

<家庭との連携>

・生活リズムが乱れている子が多く、就寝時間が遅く眠そうに登園したり朝起きるのが遅く午睡で眠りにつきにくかったりする子もいる。また、体調が万全ではない状態で登園する子も多くいる。

・他児に手が出る子や気になる子について、どこまでどのように保護者に伝えたら良いのか悩むことがある。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

＜環境＞

- ・他園の配置の仕方や環境面で工夫していることや、発達の異なる一人一人の子が夢中になって繰り返し楽しめる環境作りについて
- ・限られたスペースの中でどのような工夫をし、環境設定をしているか

＜保育内容＞

- ・戸外遊び、室内遊びの内容（子ども達が主体的に遊びを楽しむためのポイントを知りたい）
- ・雨天時の遊びの内容（室内で身体を動かせる遊びを知りたい）
- ・手作り玩具のアイデアやふれあい遊び（自分自身のレパートリーを増やしたい）
- ・食事の介助やトイレトレーニングを進める上でのポイント
- ・1日の職員の動き、職員間の連携で大切にしていること

＜関わり＞

- ・個別対応が必要な子に対しての関わり方
- ・手が出る子と相手の子に対してどのような声かけをしているか
- ・子ども同士で関わっている時に保育士が見守るか介入するかをどのように決めているか、保育士が介入すべき決め手は何か

＜家庭との連携＞

- ・保護者対応の仕方（子どもの気になる様子を伝える時に意識していること）

＜計画や記録＞

- ・第三者が読んでも子どもの発達や成長がよく分かる書き方
- ・書類を作成する上でのポイント
- ・効率良く書類を作成するためのコツ

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ：_____

【気付いた点・学んだ点】

- 各園によって環境やクラス構成は異なっていたが、悩みや課題は共通していふところが多くあつた。各園での工夫の方や心がけていることと見るところでき、とも勉強になつた。
- 年齢の幅があり玩具や環境に悩んでいたり、1人1人の子と関わったり、異年齢の子の近くにいなければいけないことで葛藤があつたり、同じ悩みを共有でき、それに対してどう対応していくかが学ぶことができた。
- 各園や各町村による指導案の様式は様々なものの中の成長のために必要なことが記されているかどうかが重要なところだと学ぶことができた。

【今後自園で取り組みたいこと】

- 異年齢が関わることができるよう統合ワーグループや毎日一緒に活動する時間を作っている園があり、年下の子に優しくしたり、年上の子に刺激を受けて様なことにチャレンジしたりする事があると知ったので、自園でも参考にし異年齢の関わりを大切にしていきたい。
- 指導計画の様式では、重複している所があるのであり、頻度を算すことができる感じになりたので、他園の様式を参考にしながら自園で話し合っていきたい。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

- 似ている悩みと抱えている他園の先生方の様々な話す事ばかりで、環境作りや保育内容について学ぶことができただけではなく、悩みと共有でききた安心感もあつた。一緒に悩みについて話し合の中で、同ソの先生方も自分に対して悩みを抱えながら日々頑張られていることを感じた。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

今回の研修を通して、他園の先生方と一緒に情報交換をしたり、他の市町村の保育について知ることができる機会と、今まで知らないことを多く学ぶことができた。園は違うとも似ている悩みを抱える先生方と話し合う中で、今後保育に生かしていくことができる工夫やアティテュードを知ることができ、勉強になった。保育がたくさん関わっている多くの援助や手立てをすることが必ずしも良いのではなく、子どもが夢中になってしまふ時、自分でしようと意欲を持った時は、なまはできるだけ見守るべきだという話を聞き、自分はどうしているのかと自分自身の保育を振り返らなければいけにもなった。

【今後自園で取組みたいこと】

今回の研修で学んだ多くのこと、自園の職員に報告し、他園の保育や環境、指導計画の様式など参考にしながら、自園がより良い保育を行えるよう話し合っていきたい。

また、行事や書類では、本当に必要なことは何かを考えながら見直せること、工夫できるところがなまはでいて話し合っていきたい。他園の先生方から聞いた遊びや環境構成の工夫などを自園の保育の中で生かしていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

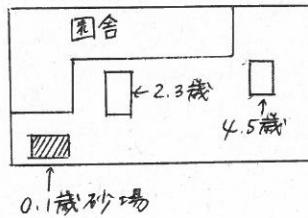
私自身、3年の経験が少ないので講議も公開保育もとも勉強になりました。4日間の研修を通して、乳児期の経験が子どものこれから的人生に大きく影響することを学び、改めて保育という仕事の大切さを感じることができました。ありがとうございました。

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

- 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。
- *環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【環境】

- 0歳児保育室、テラス、園庭で天候や子どもの体調に応じて過ごしている。
- 園庭には主に0, 1歳児が遊べる砂場を作っている。その周辺に芝生を植え、プランター、花壇、すべり台などを設置している。興味のある自然物を触ったり、体を動かして遊んだりすることを楽しんでいる。
- 園庭はフラットで異年齢の活動も見える。



【保育内容】

- 少しづつ歩行が安定し、歩くことを楽しむ姿が見られているので、秋以降は園庭で過ごすことが増えている。一人一人が十分に探索や遊びを楽しめるよう、保育者間で声掛けをしながら安全に見守ったり一緒に遊びを楽しんだりできるよう心掛けている。
- 砂場には3上クラスの子どもが遊んだり、誘いに来たりすることもあり、異年齢の関わりが多い。

【関わり】

- スキンシップや応答的な声掛け、表情などを意識して子どもが安心して過ごし保育者と信頼関係を築けるよう心掛けている。
- 食事や衣服の着脱など簡単な身の回りのことに興味が出始めている子どもに対しては、その気持ちを大切にしながら、さりげなく援助を行うようにしている。

【家庭との連携】

- 連絡帳や送迎時に子どもの様子やエピソードなどを共有しながら、保護者との信頼関係を大切にし、丁寧に関わるようにしている。

【他職種との協働】

- 調理員が食事中に様子を見に来てくれ、子どもの発達や家庭での食事状況などを踏まえて相談しながら個々に応じた食材の大きさや硬さなどを提供できるようにしている。
- 保育支援員が食事のサポートに入ってくれている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【環境】

・子どもの発達や特性に応じた遊びの環境を用意、確保することが難しい。玩具で集中して遊ぶ子どもがいる一方で、目に入ったものに興味をもち触りたい気持ちが強い子どももいるので、トラブルになることが度々ある。一人ひとりの興味関心に応じてどのような遊びや玩具を用意するべきか、また落ち着いて遊べるようスペースを区切るのが適切か悩んでいる。

【保育内容】

・午前睡はしていないが、給食の途中に眠くなる子どもに対して、十分に食事量がとれていないのではと不安になるがどのように対応すればよいか悩んでいる。

【関わり】

・子ども同士で叩いたり、噛みついたりする姿が増えてきている。怪我がないように注意して過ごしているが、自分の気持ちに余裕がなく子ども一人ひとりの遊びの様子や成長を丁寧に見ることができないと感じている。

【家庭との連携】

・家庭と園での食事内容の差が大きく対応に悩んでいる。入園当初は咀嚼や嚥下がしにくく、ペースト状から徐々に固形に移行している子どもがおり、保護者の意向を踏まえ園では食材を刻んだものを提供している。家庭では誤嚥などに気を付けながら慎重に食事を進めており、ミルク、おかゆが続いているので園で提供している食事の形状に慣れにくく給食の時間に泣いて過ごすことが多い。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【環境】

- ・子どもの発達や一人ひとりの興味関心に応じた環境や遊び、玩具など他園での取り組みを知ることで自分の知識を増やし、実践していきたい。
- ・子どもの安全を保障するため環境設定、保育者間での連携を学びたい。

【関わり】

- ・言葉でのコミュニケーションがしにくい乳幼児期の保育で、子どもの思いや要求をくみ取ることが難しく保育者目線での関わりになってしまることが多い。子どもと関わるうえでの大切にするべき視点や具体的な援助の方法など、乳児保育についての学びを深めたい。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ：_____

【気付いた点・学んだ点】

1日目

- 環境においては、どの園も規模や保育者の人数等異なるが、3歳未満の子どもが安心・安全に過ごせるようスペースの確保、危険の無い玩具・道具の選定など工夫されていることがわかった。近くの図書館から会本を借りることやできたり、モンテッソーリ教育を取り入れていたりと各園の特色を知ることができた。
- 子ども一人ひとりの発達が異なる中で遊びの設定や環境をどうするか、や、家庭との連携の難しさなど、同じ悩みや疑問を共有することやできたり。家庭との連携のために、子どものポジティブな姿を中心に様子を伝えていくことの積み重ねが大切だと学んだ。
- 指導計画等書類では各園で形式や種類が大きく異っていた。重複している部分や疑問を感じる点もあり、効率的に作成していくために振り返ってみると大切だと感じた。
- 家庭との連携について、難しさを感じる場面では保護者との意識のずれや原因となっていることが多かった。（トイレトレーニング開始の時期、けがや体調不良時の連絡基準など）まずは保護者の思いを聞き受け止める姿勢を大切にし、その後質問で連携とりながら対応していくことで、保護者も子どもも尊重しながら保育を進めていくことにつながるとわかった。

【今後自園で取り組みたいこと】

1日目

4日目

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

自分の園にいるだけではわからない他園の環境や取り組み、子どもとの連携を知ることができる、充実した内容だった。

同じ悩みや課題を共有することもでき、まとめてることもできた。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- ・子どもが安心、安全に過ごせるための環境や隣わりについて学びたいと考えていたので、感染症や緊急時対応法、から離乳食対応子で中庸しく対応することことができた。
- ・緊急時の救急処置では実際に人形を使用して行うこと、手を当てる位置や力の入れ方を減らすなど知ることができた。自分の判断力、判断力が子どもの命を左右するという責任感も改めて実感した。
- ・3歳未満の大人・保育者との隣わりについて安全基地の獲得についても学び隣にも影響を与えていくことがわかった。自己肯定感をしっかり育てていく方法も隣わりについても大切だと学んだ。
- ・どの科目でも、子どもの自分でやっている、気持ちも3歳未満児にあっても見落とさず、尊重していく環境・隣わりをしていくことを常に考えていくたいと思った。

【今後自園で取組みたいこと】

- ・離乳食の支援ポイントを学び、手がけ食べや食具の使用の際に十分に行える環境や介助方法を職員間でも共有していくことを思った。
- ・給食や薦めたい時間におけるのではなく、汚れてもいい環境、見守る姿勢を大切にしたいと思った。また、食べて！気持ちをもてるとか、午前の活動をしっかり体を重かげり空腹を感じられる内容には力を入れたいと思った。
- ・ふれあい遊びの大切さを知り、0歳児のふれあいリストに書かれている内容を取り入れてみたいと思った。それに隣には子ども一人ひとりと目を合せ、気持ちが通じる隣わりを実践したい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

- ・自分の保育が子どもに与える影響を改めて感じ、大切な時期の保育を任されていることを実感した。
- ・具体的な援助方法もタクに知ることができ、実践してみたいと思った。
- ・遊びと生活のどちらも子どもの育つには必要とわかり、一人ひとりの子どもに受け継がれ、その子の気持ちを大切にしてつなげ保育していくたいと思った。
- ・貴重な経験の機会をありがとうございました。

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

* あそび

・行事や季節のあそびを多く取り入れていて、3歳でもできるあそびを考えている。

感触あそび（小麦粉・粘土、春雨、おからパウダー、スライム、高野豆腐、ワカメ（0.1.2歳）、片栗粉、寒天など）

0歳児クラスでは口に入れないようにジップロックに入れてさわったり保育教諭と一緒にやってみる

集団あそび

（1.2歳）

（おひっこしへき、むくりくまさん、色おに、しづかとり、イスヒリゲームなど）簡単なルールのあるあそびを取入れることで約束事を守る大切さを学べるようにしていく。

保育教諭や鬼役の子どもとの関わりを楽しめますようにする。

異年齢児との関わりは、お店屋さんごっこや夏まつりごっこを通して大きいクラスのお兄ちゃんお姉ちゃんとの関わりを楽しめるように工夫している。一緒にお店をまわしたり、ゲームコートを楽しむ。

*生活

1階が3歳、2階が3上、3階がホールになっていて、上のクラスによく散歩に出かけ歌を聞いたり、製作物を見たり他のクラスにも興味をもつようになっている。階段ののぼりおりが秋ごろにはスムーズになり1年を通して足腰がしきり発達していくことができる。

*運動会・発表会ではこの時期に子どもたちが好きな踊りや絵本などから劇にいたり、そのときの成長に合わせて保護者に見せてもらったり、早い段階で練習に取り組むようになっている。

*月に1回の給食会議で食材の大きさや量などを給食先生と話して子どもの選び具合など意見交換している。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

・月齢差が特に目立つ。0.1歳児の活動力が難いことがある。

* 感触あそびをやりたいが、指すいや口に手をもってしまう子が多いとなかなか出来ない。

* クレヨンも筆圧が弱く画用紙に色がつかない子が多い

・食事では高齢児の子はスプーンで食べることができるので小さく保育園の子どもが近くになるとその姿を見て羨慕として、手づかみ食べて食べようとする子どもが多い。
(テーブルを分けたらいいが、高齢の子の刺激も大切...)

・友達との関わりで一緒にあそびたり時と、一人で木や車などをやりたり時に声かけや対応に戸惑うことがある。
(作ったものとこちてあそぶ子が多い...)

・小さくクラスは複数担任とすることもあり保育者同士の連携が大切だが家庭との連絡事項など誰かが伝えてくれているといふ思い込みなどで行き違いになってしまることがある。

・保育活動の中で設定が思っている環境構成とちがっていたり、クラスでの言ひ合いかにしきりでできていないと円滑に保育を進めていくことができない。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

* 乳児 保育の あそびで 月齢を 分けて 同じように できる あそびと
知りたい。（同じように あそんで いるけど やり方はちがうなど）

* やいや 朝に入れて 3時頃に トイレを しているか 声のかけ方 や
タイミングなど、 子どもに 合わせて やっているか これでいいのか ...
・ やいやの 時に 無理に 連れて いき トイレが 繁になつても いけない
・ 成功したら しゃかりき めることで 自信はついて いける ...

* 給食で 好き嫌いのある 子どもへの 対応

自ごはんが 大好きで おかわりして、お米だけを 食べてくれるから 3はいいぢ
おかわりしている状況でいいのか ...
今は 食べる 意欲を大切にしているが 少しは おかずやお汁も 料理をして
いくべきなのか ...

* 子ども同士のやりとりの中で どこまで 仲介に入つてあげると より 楽いあそびに
發展して いけるか 考えて いきた。

1歳児クラスでは 言葉が 増えてきて 左右との 間 ありも 増えているので
「いーおーーー」 や 「あーーーほー！」 と一緒に まとめてみた際に、 その子は まだ 一人あそび
のか 集中して あそぶ 姿が 見られた。 玩具や 子どもの お気に入りの あそびを
把握して 声をかけていく 必要がある。

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ：_____

【気付いた点・学んだ点】

家庭との連絡が手帳がなしてアプローチで行っている図が増えている。
保護者への対応が適切しかたり、保護者にカミツキやケガの
伝わりにくく、保護者に対する理解が高まってきた。

報告をする際に気付けていたことを学ぶことができた。
家庭との連絡で難しかった感じでいることはどの園も共通している部分があり
保護者により子どものいいところを伝え、信頼関係を築くことが
大切！

保育の計画、作成においては月・週案で1枚になっている図もあつたが、だいたいは子どもの
ねらい、姿、環境構成などを書いて反省、評価があることに気付くことができ、いつと
ねらいをもって姿に合わせた遊びを考えていきたいと思つた。

（参考）

【今後自園で取り組みたいこと】

・園内研修などで今回の研修で学んだ保護者へのアプローチ、連携の取り方などを
い、カソとワールドでまとめて実演なども含め着手の先生に大切なことを伝えて
いきたい。

・実習園で見た担当制の良さをすぐに取り入れることは難しかが、仕事分担と
子ども分担をうまく活用しスムーズに活動に入れるようにしていきたい。

・手作りおもちゃの見せあいことですぐにできそうな空き箱を使ったほととじん
作ってあけた！

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

遠方の保育園の方とも交流でき様々な保育のやり方や対応などがあり
多くの時PPTワールドワークがあつたことで、レガソ話し合うことができてよかったです。
保育所実習の際に公開保育でやった園の先生や同じ担当児の年齢の先生との
話し合いで各園の遊び、生活の工夫しているところや環境設定で自己磨いて
いるところが、今まで勉強強になつた。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

乳児保育の3歳未満の経験や発達が大人や幼児になっての成長に大きく関わることを改めて学ぶことができた。

遊びや、1対1の関わりを大事にして声かけをしてあげたり、気持ちをみてあげたいと思った。

実際に赤ちゃんの入浴を使って窒息の対処方法を学び、強くたたかないとつまっている物は出てこないと感じた。

また、普段の手洗いでは指のつけ根や親指など全然洗えていなかった。

（もう少し毎日丁寧に洗あないといけない）
子どもの発達において表象機能は一緒に発達していくことを知り、0.1歳のうちに子どもの発達において表象機能は一緒に発達していくことを知り、0.1歳のうちに様々な遊びを提供してあげることが大切だと学ぶことができた。すぐに保育者が介入することなく遊びを見守ることも大事！

【今後自園で取組みたいこと】

コーナーにいくつが分かれて好きなところを並んであそべるような環境やふれあい遊びを交代についてあげることが今までなかったので、やってあげたいと思った。

（朝や夕方にいる特産の子だけよくしていた。）

定期的に様々な急救措置の確認を園全体で行っていました。忘れていました

（久しぶりにエビペニをさわったり、背部叩打法をきてやつないと忘れていました）

トイレや離乳食、発達過程など保護者との連携が必要な部分はいかゞコミュニケーションをとる信頼関係をきめつけてから進めていきました。

（伝元方によては納得のいかない親も今はいる）

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

普段の遊びでちょっと意識を変えていくだけでこんな発達につながっていく。この力をつけていけるなど乳児保育からの積み重ねが本当に大切だと感じることができ、0歳児の担任が土台を作っていく素晴らしいことを学ぶことができた。

令和7年度 3歳未満児保育サービス向上支援研修会

1. 所属園における3歳未満児の保育を振り返り、特長、園独自の取組、自ら工夫していること等について、以下のような視点から振り返りご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

【環境】

・3歳未満児、3歳以上児共に広い園庭があり、自ら選んだ遊びの充実を図っている。3歳未満と3歳以上で園舎や園庭が別にはなっているが、3歳以上の園児は自由に3歳未満の園庭に来ることができる。また普段の生活の中でも、身の回りの手伝いに来てくれたり、一緒に散歩に行ったりと、交流の機会を多く設けている。毎朝3歳以上がふれあいタイムを行っているので、3歳未満はテラスから見学をしている。2歳児は一緒に参加させてもらうこともある。

・隔週で週案検討会を行っており、園児の実態と遊びの環境の再構成を行っている。季節に合わせた様々なコーナーを用意しており、園児が自ら主体的に遊べる環境を整えている。3歳未満、3歳以上で話し合った内容は担当がまとめて配付され、全体で共有するようにしている。

【家庭との連携】

・学期に1回の参観日と、運動会・発表会を取り入れ、子どもの様子を見てもらうことで、共に成長を見守れるようにしている。参観日では、親から離れられない園児もいるため、普段の様子を動画に撮り、参観日で視聴することで、遊びの様子や園での生活の実態、4月当初と比べ、成長したところなどを共有している。

【他職種との協働】

・年に2回情報交換会を行っており、保育者、保健師、療育などの専門機関で気になる園児の実態を共有し、今後の支援方針について話し合う。午前中は、実際に園児の様子を見てもらい、午後から話し合いを行う。療育に通っている園児は、年に1回以上スクラム会議を行い、保育者、保健師、療育、保護者が一緒に園児の成長や課題について話し合う時間がある。

・園の中に給食室があり、管理栄養士の先生と調理の先生がいてくれるため、普段から園児の食事の様子を見に来てくれている。月に1回給食会議があり、食べが良かったメニューと、残食が多かったメニューについて各クラスの話し合いを行う。来月の給食の献立についても話し合う時間を設けている。

2. 日頃感じている3歳未満児保育の問題点・疑問点について、以下のような視点から、できるだけ具体例を挙げてご記入ください。

*環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

・月齢によって発達の差が大きいため、活動の難しさを感じる。食事、排泄、着脱などの身の回りのことでも一人一人に手がいることが多い。年齢的にも、集団での活動は難しい時期ではあるが、集団での活動が必要になる場面もあり、個々に応じた援助が難しいと感じることもある。

・発達に遅れがあったり、集団での活動に参加できにくかったりする園児もいるが、年齢が幼いこともあり、様子を見ましようとなることが多い。同じ月齢の園児でも、家庭での関わりや経験によって、できることへの差が生まれているため、見極めが難しい。

・噛みつきがある園児への対応の難しさがある。言葉で伝えられない思いを、叩いたり噛んだりすることで表現しているのだと思うが、防ぐことが難しい。また、トラブルがあった際に、言葉で伝えるのでは納得できない園児もいるため、伝え方が難しい。

3. 今回の研修で学びたいことは何ですか。以下のような視点から自己課題を設定してください。

* 環境・保育内容（生活や遊び）・関わり（保育者と子ども／子ども同士）・家庭との連携・他職種との協働・計画や記録など

・集団と個のバランス。年齢に応じて、どこまで全体での活動を求めるべきか、どんな活動があるのかを知りたい。

・3歳以上児とは違い、話をしてもなかなか伝わらないことがあるため、どのような伝え方をしたら園児が納得して次の行動にうつることができるのか。また、自分の欲求や思いを伝えられず、手が出たり噛みついたりする園児のトラブルが減らせるような、保育の仕方や環境づくりを知りたい。

・手遊びや歌、遊びなど、日々の保育で使える出し物の引き出しを増やしたい。

・保護者に、日々の園児の様子を知ってもらうために、工夫していることはあるか。（送迎時の伝え方、ドキュメンテーション等）

4. グループワークを終えて（具体的にご記入ください）

グループテーマ：_____

【気付いた点・学んだ点】 (8:00~.17:30)

- 1日目。登降園と戸外で受け入れしているところもあり、保護者から離れて登園しておいたり、お迎えを待つのも楽しく待つことができるなどと思つた。
- 担当者を取り入れての園もあり、一人一人との関係がつくりやすいとのメリットもある。
- 他の職員との関係がつくりにくかったり、責任が大きく、休みがたりにいくつものデバイスもあつたなどと考えた。
- 各園での取り組みは様々ではあるが、子どもの待ち時間を作ってしまう、遊びのパーソナリティ同じにならぬしまう、などの問題は、どこの園も共通していふものがあつた。
- 4日目。指導計画は各園で様々な様式があり、自分の園の使いやすさと3年や改善が必要なところ等、考え直すことができる。自分の園しか知らないからでは、他の園と比べる機会を設けられておいた。
- 家庭との連携で、みんなとおもてなしや、責任感など感じており、参考になつた。
- お隣のアパートでは、アパートの面や肯定的な言葉が伝えていたと思つた。

【今後自園で取り組みたいこと】

- 天候やよる時には、自園でも戸外で遊びながらお迎えを待つてほしい。
- その後もヒレヒルを取り入れていきたくなると思つた。
- また、保育所実習で見せてほしい。普段からの異年齢での交流や遊びの中で様々な種類の自然物を用意し、見立て遊びなどできる環境づくりは、自園でも取り組んでいきたい。
- 保護者との連携で、伝えうるところでは3分の1のところではある（園ではこのようないくつかのところまであります！）と具体的には伝えながら、一端者は成長を見守りたいと思つた。
- 指導計画の様式、必要な書類（園ごとれど、どの期間で記入するか）は自分で決めるところを考えて、考え書きながらをあつらいいつもと思つた。

【その他（グループワークの感想等自由にご記入ください）】

最初は知らない人にばかりの中で緊張してしまった。次日からグループで取り入れたの活動が多くあり、これは初めてで打ちとけることができた。4名という人数もみんなが話をすることができて、とても良かったと思つた。

その後もグループがわかるなどなく、4日目まで同じグループでいたのも、気持ちが楽になりました。

5. 4日間の研修を終えて（具体的にご記入ください。）

【今回の研修で気付いた点・学んだ点】

- 園やもてるクラスの年齢はちやうども、抱える悩みや考え方などは似てゐるところ多くある。子どもから離れて、改めて自分の保育を見直す良い機会になった。保護者対応は、自分自身、難しくてあと思うことは多くあったので、共有できて、また、他の人たのも同じように元気張って、とてもうれしかった。元気張ると思つて、普段の送迎時から何気ない言葉で励まされて元気張ると思つて、肯定的に保護者信頼関係をつくるべき、できればよいことを伝え3日目にも思つた。
- 4日間の中での保育実習があり、他の園の保育を見せてもらつた。機会は少ないけれど、とても参考になりました。手作り玩具や室内、戸外の環境構成等、良いと感じた点が多くありました。

【今後自園で取組みたいこと】

- エビペニを使う必要があるアレルギー児は自園にはいないから、今後のためにも、園内研修等で学んでいたりや、やり方を全体に共有していく、共通理解を図つてもらいたいと思う。
- 0歳児の「あわい遊び」の動画を見て、0歳の時から保育者とスキニッシュでとりはから、保育者の歌声で、あわいことは大事だとと思つた。資料にのつては0歳児の「あわい遊び」リストを共有しながら、1歳児、2歳児もどのようなものがあるか、みてよって考えて取り入れたい。
- 自己達がしんじくからよいほうは働き方、資料の作成の仕方を考えていきたい。

【その他（研修の感想等自由にご記入ください）】

4日間 講義やグループワーク、演習を経てから、3歳未満児の保育について、より深く学びました。また、自分自身の保育を改めて考え直す機会になりました。

貴重な研修の機会をいたしました。ありがとうございました。